

CLAL を通じたアクティブ・ラーナー育成とFD の課題

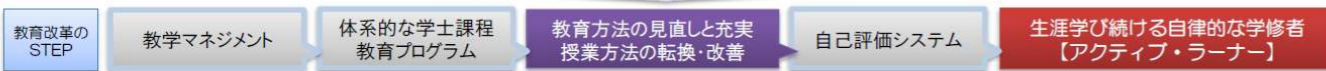
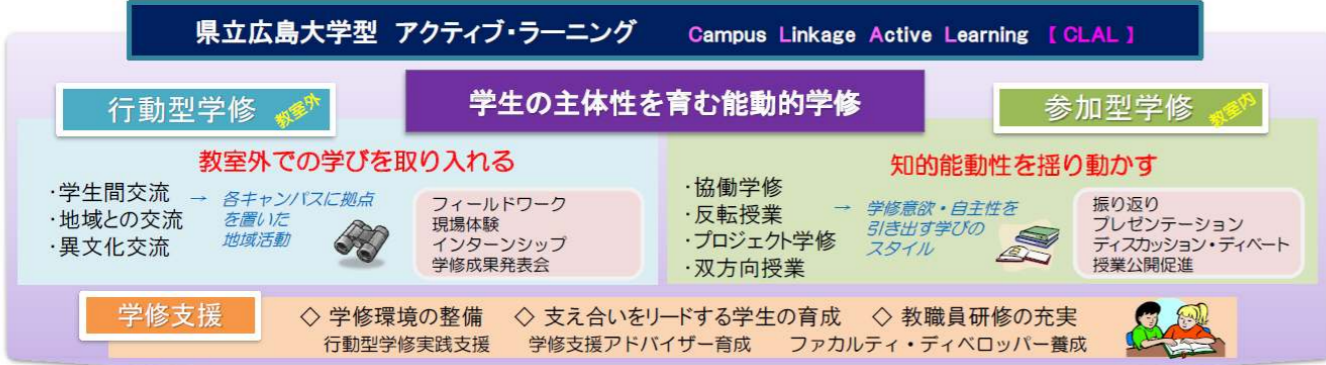
県立広島大学 総合教育センター 岡田 高嘉 ・ 門戸 千幸 ・ 馬本 勉



大学教育再生加速プログラム

大学等名：県立広島大学
テーマ：テーマ I (アクティブ・ラーニング)

取組概要 地域活動を組み込み、主として教室外で行う「行動型学修」と、学修者の知的能動性を揺り動かし深い学びを喚起する「参加型学修」を組み合わせた「能動的学修」を学士課程教育に計画的に導入して教育改革を進める全学的な取組である。これにより、幅広い教養と高度な専門性を備えた人材を育成し、生涯にわたり学び続ける自律的な学修者アクティブ・ラーナーの育成を目指す。



指標	26年度 (実績値)	28年度 (実績値)	31年度 (目標値)
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合*	100%	100%	100%
ファカルティ・ディベロッパー養成	0人	36人	30人
学修アドバイザー育成	0人	41人	55人

* 26年度以降の数値目標はアクティブ・ラーニングを再定義した上での値である

学長のリーダーシップの下、教育改革に取り組む。本学での学びに対する学生の満足度を高め、卒業生の活躍により地域への波及効果を狙う。

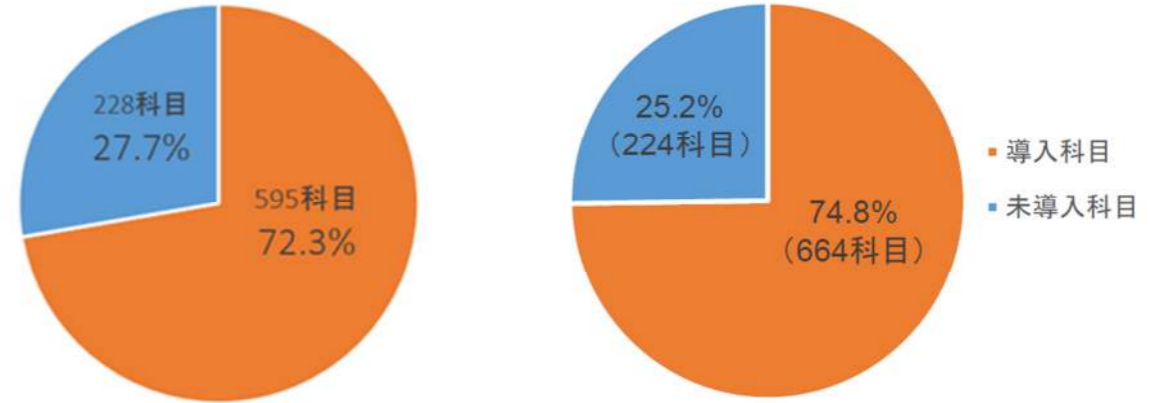
- 教室外での学びを取り入れ、学修意欲・自主性を引き出す新たな教授法による授業外学修の充実を加速する。
- 知識を活かせる人材の育成を目指して、真の問題発見力や課題解決力、論理的思考力を育む。
- FD・SD活動の充実により、教職員の意欲を向上させる。目標を共有し、教育の質的改善に全学的・組織的に継続して取り組む。
- 学生同士が教え合うことで、学びを定着させる。

県立広島大学型アクティブ・ラーニング CLAL Campus Linkage Active Learning

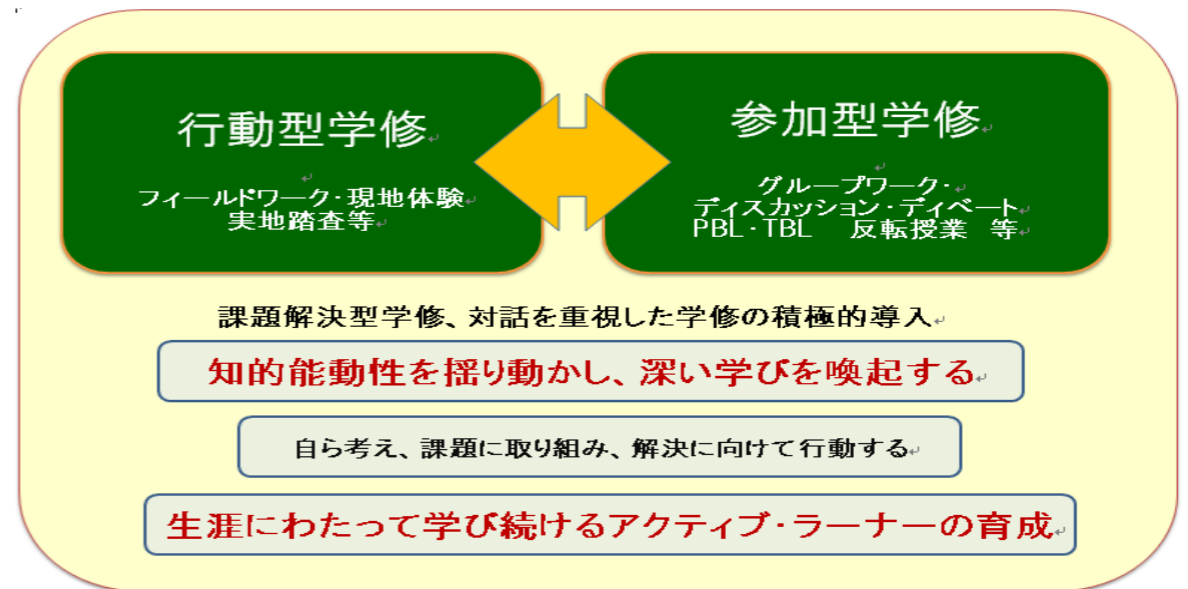
3つのキャンパスをつなく、3キャンパスと地域をつなく



県立広島大学型アクティブ・ラーニング (CLAL) 導入状況調査結果



導入の目安：90分授業で20分相当の行動型学修・参加型学修 (学期中の合計300分以上)



- ◆グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを中心に導入が進む
- ◆導入による効果： 授業への参加度、理解度の向上
- ◆導入が困難な理由： 説明時間が減る、クラスサイズが大きすぎる

【課題】 AL 授業をけん引する教員、AL 学修を支援する学生の養成
⇒ 「学び合い」の仕組みづくり 加速！

CLAL を支える「学び合い」の仕組みづくり《FD 活動》

教員		学生
ファカルティ・ディベロッパー (FDer)	名称	学修支援アドバイザー (SA)
担当授業等において AL を実践し、学科内の他の教員へ AL に関する指導・助言 を行うとともに、本学における AL の普及・浸透 に努める教員。	定義	授業内外において本学学生への学修支援を行い、他者の学びを支援することを通じて、 自身が学ぶ喜びを感じ、生涯学び続けるアクティブ・ラーナー (ALer) を目指す 学生。
① 組織的教育改善 (カリキュラム改善提言, 高大接続) ② AL 実践と普及 (授業ピアレビュー) ③ 学修成果の把握 (ルーブリック作成) ④ SA との協働 (SA の活動をサポート, 授業支援活動の促進)	役割	① ラーニングコモンズでの学修相談 (試験対策, 情報検索, レポート作成) ② 教員の求めに応じた授業支援 授業外学修のサポート 授業運営支援 (グループ活動等) 授業改善に資する意見
・ AP 事業推進部会員 ・ 学科推薦 ・ 行動型学修企画教員 ・ 学外研修参加教員	選任方法	・ 学科推薦 ・ 自己推薦 ・ 授業担当教員からの推薦
AL 推進者としての FDer 現在 49 名 (最終目標 30 名)	期待	ALer トップランナーとしての SA 現在 57 名 (最終目標 55 名)
・ AL の知識, 授業スキルは十分か? ・ 組織的教育改善の意欲? ・ FDer ばかりが負担増?	課題	・ 意欲とニーズの不一致? ・ アドバイスのスキルは十分か? ・ 教員との連携不足?
【ゴール】 FDer・SA の成長と協働 ⇒ ALer 育成		

【課題】 FDer の成長が急務

FDer の成長を促す (H29 年度)

- ・ **役割の明確化・分担**
- ・ **ルーブリックによる自己評価**
 年度内に「実践力」へ
- ・ **授業ピアレビューの促進**
 「授業参観シート」を用いた相互評価
- ・ **実践の積極的な発信**
 普及のための全学 FD (ポスターセッション)

学部・学科	平成 29 年 月 日 () 限	授業者氏名	参観者氏名
授業実施日時			
授業名			

観点	具体例	評価	気づき
準備	ア 授業を受ける準備ができている。	3-2-1	
反応	イ 授業における疑問や指図に対して積極的に反応している。	3-2-1	
思考・表現	ウ 授業中の記録に自分の考えを書いている。	3-2-1	
省察	エ 授業の振り返りに授業前との比較が記されている。	3-2-1	
協働	オ 対話的な学びで新たな発見をしている。	3-2-1	
社会性	カ 集団の中での役割を考えた言動がある。	3-2-1	
全体を通しての所見			

※ 観点は「学士力」も可。(1 知識・理解 2 汎用的技能 3 態度・志向 4 総合的学習経験等)

FDer 自己評価ルーブリック (案)

	A. 実践力	B. 応用力	C. 基礎力
1. 組織的教育改善	カリキュラム・ポリシー (編成方針, 教育・評価方法) をアクティブ・ラーニング (AL) の観点から点検し、カリキュラム上の課題の指摘と、改善のための提言ができる。 □(満足)達成 (6点) □半分程度達成 (5点)	大学入学以前に培った「学力の3要素」をさらに発展・向上させ、学生を社会に送り出すために必要なことがらを説明できる。 □(満足)達成 (4点) □半分程度達成 (3点)	「学力の3要素」とは何か説明できる。 □(満足)達成 (2点) □半分程度達成 (1点)
2. AL 実践と普及	AL の授業を公開するとともに、他者の授業を参観し、助言することができる。 □(満足)達成 (6点) □半分程度達成 (5点)	AL の手法を用いて授業を行い、その振り返りにより授業改善を図ることができる。 □(満足)達成 (4点) □半分程度達成 (3点)	AL とは何か説明できる。 □(満足)達成 (2点) □半分程度達成 (1点)
3. 学修成果の把握	アクティブ・ラーナーとしての到達度をはかるルーブリックを作成・活用し、学生の伸長を可視化することができる。 □(満足)達成 (6点) □半分程度達成 (5点)	ルーブリックの活用法を理解し、作成することができる。 □(満足)達成 (4点) □半分程度達成 (3点)	ルーブリックとは何か説明できる。 □(満足)達成 (2点) □半分程度達成 (1点)
4. 学修支援アドバイザーとの協働	学修支援アドバイザーと協働し、アクティブ・ラーナーを育てる授業をすることができる。 □(満足)達成 (6点) □半分程度達成 (5点)	学修支援アドバイザーの役割を理解し、その活動の具体例を示すことができる。 □(満足)達成 (4点) □半分程度達成 (3点)	学生による学修支援の意義が説明できる。 □(満足)達成 (2点) □半分程度達成 (1点)

ALer 自己評価ルーブリック (案)

	A. 実践力	B. 応用力	C. 基礎力
【知識・技能】 1. 学修・方略	大学での学修方法を修得し、さらに学びを深めるために質問を発することができる。 □(満足)達成 (6点) □半分程度達成 (5点)	授業外学修の進め方を理解し、実践できる。 □(満足)達成 (4点) □半分程度達成 (3点)	基本的な学修方法や、情報収集の方法を知っている。 □(満足)達成 (2点) □半分程度達成 (1点)
【知識・技能】 2. 知識・応用	修得した知識や技能を、他人に教えたり、問題解決に役立てたりすることができる。 □(満足)達成 (6点) □半分程度達成 (5点)	修得した知識や技能を応用し、より深く学ぶことができる。 □(満足)達成 (4点) □半分程度達成 (3点)	大学における幅広い学びを通じ、基礎的な知識と技能を身につけている。 □(満足)達成 (2点) □半分程度達成 (1点)
【思考力・判断力・表現力】 3. 意見・表明	自ら組み立てた明確な意見を持ち、それを相手に的確に伝えることができる。 □(満足)達成 (6点) □半分程度達成 (5点)	ものごとを多面的に捉え、柔軟に思考した上で、自らの考えを組み立てることができる。 □(満足)達成 (4点) □半分程度達成 (3点)	同じことがらに対しても異なった理解や解釈が存在することを理解し、ものごとを多面的に考えることができる。 □(満足)達成 (2点) □半分程度達成 (1点)
【思考力・判断力・表現力】 4. 課題・解決	熟考して得られた課題解決方法を、的確な方法で実行できる。 □(満足)達成 (6点) □半分程度達成 (5点)	課題解決へ向けて、論理的、創造的に熟考することができる。 □(満足)達成 (4点) □半分程度達成 (3点)	困難に直面したときに、解決すべき課題に気づくことができる。 □(満足)達成 (2点) □半分程度達成 (1点)
【主体性・協働性】 5. 自律・意欲	社会の諸問題に関心を持ち、主体的に学び続ける心構えができている。 □(満足)達成 (6点) □半分程度達成 (5点)	自律して学修する意欲を持ち、日々の学修で実践できる。 □(満足)達成 (4点) □半分程度達成 (3点)	向上心をもって学ぶことができる。 □(満足)達成 (2点) □半分程度達成 (1点)
【主体性・協働性】 6. 共感・協働	相手を尊重し、目標の達成に向けて協働することができる。 □(満足)達成 (6点) □半分程度達成 (5点)	相互理解を進めるために対話することができる。 □(満足)達成 (4点) □半分程度達成 (3点)	大学生活において、同じ時間や場所を共有する相手を思いやることができる。 □(満足)達成 (2点) □半分程度達成 (1点)